

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19 年 7 月 25 日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2871200438		
法人名	有限会社 シンセイケア		
事業所名	グループホーム三輪		
所在地	兵庫県三田市三輪二丁目13-16 (電話) 079-553-8820		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年6月29日	評価確定日	平成19年8月15日

【情報提供票より】 (19年6月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤4人, 非常勤 19人, 常勤換算9.6人	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有 ( 300,000円) 無 (敷引き150,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	円	おやつ 費用負担なし 円
	または1日当たり 1,300 円		

#### (4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	2	要介護2	8
要介護3	7	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82 歳	最低 70 歳	最高 95 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤原内科・嶋谷歯科・竹本整形外科・東浦診療内科
---------	-------------------------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム近くの国道沿いには商店や飲食店等が散在し医療機関も比較的近距離にあり、利便性の良い環境に位置している。周辺はのどかな田園風景も残っており、付近を流れる武庫川沿いの桜並木は四季の変化を感じさせ入居者の散歩コースにもなっている。ホームに隣接して菜園と広場があり、菜園では季節の野菜や花々を育て入居者の心身機能の維持や生活の張りに繋がっている。また広場では年間を通してバーベキュー・盆踊り大会・餅つき等を地域や家族の参加のもとに開催し、地域密着型サービスとしての理解と協力を得る機会となっている。ホームは市との連携を図っていく事にも配慮し、運営推進会議等での意見交換を始めとした協働関係を継続していけるよう努めている。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 評価結果は研修会等で改善に向けた話し合いを行うとともに、事務室・職員休憩室に掲示し、サービスの質の向上に反映できるよう取り組んでいる。運営推進会議で評価結果を報告し、改善点について説明を行った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 前回評価を踏まえ、自己評価は、ホーム長・管理者・計画作成担当者が中心になって取り組んだ。今後も職員一人ひとりのケアの質の確保や向上を図るために、職員全体で自己評価に取り組んでいく事を期待する。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回の定期開催が円滑に行われている。入居者・入居者家族・民生児童委員・管理者等と共に市担当職員の参加があり、活発な意見交換が行われている。幼稚園や保育園との交流を持ちたいとのホームの提案に対し、会議内で情報提供等の協力が実現に向けて取り組んでいる。主な会議内容については家族へ請求書発送時に報告しているが、家族会でも報告できるよう検討している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 入居者の状態は家族面会時や電話等で伝えるとともに、月1回写真を添えた文書で報告している。家族会の開催は家族の時間的な負担も考慮し、行事とあわせての実施を検討中である。苦情相談等は家族の面会時に対応する事が多い。職員は共通認識を持つ為に苦情処理記録として残し、研修会やミーティングで話し合い、対応を統一していくよう取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域とのふれあいを大切にしており、日常的に近隣の人の往来がある。入居者も地域へ出向く機会も多く良い関係作りができています。ホームに隣接した菜園と広場で季節の野菜や花々を育て、広場では色々な行事を開催し地域や家族との交流を図っている。民生委員やボランティアの協力でアクティビティを充実させ、「高齢者介護の家族の会」などとの交流で地域との関わりに拡がりが見られる。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より地域の理解があり、理念実現に向けての取り組みに協力的な環境が整っている。開設当初の理念を見直し、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を加えた運営理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のカンファレンスや3ヶ月に1回の内部研修で理念について確認しあい、日常のケアで具体化していけるよう取り組んでいる。理念はホームの各箇所に分かりやすく掲示すると共に職員の休憩室への掲示で職員への浸透を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に近隣の人との往来があり、地域とのふれあいを大切にしている。また入居者も地域へ出向く機会も多く、良い関係作りができています。ホームに隣接して菜園と広場があり、入居者と職員は季節の野菜や花々を育て、広場では年間を通してバーベキュー・盆踊り大会・餅つき等を開催し、地域や家族との交流を図っている。民生委員の協力やボランティアによるアクティビティを充実させ体操・習字 踊り・手品・歌等を楽しめる取り組みがある。「高齢者介護の家族の会」や障害者の方々との交流があり、地域との関わりに拡がりが見られる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は研修会等で改善に向けた話し合いを行うとともに事務室・職員休憩室に掲示しサービスの質の向上に反映できるよう取り組んでいる。前回評価を踏まえ自己評価は、ホーム長・計画作成担当者が中心になって取り組んだ。	○	職員一人ひとりのケアの質の確保や向上を図るために、職員全体で自己評価に取り組んでいく事を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在まで5回実施しており2ヶ月に1回の定期開催が円滑に行われている。入居者・入居者家族・民生児童委員・管理者等と共に市担当職員の参加があり、活発な意見交換が行われている。前回評価結果を報告し改善点等について話し合った。幼稚園や保育園との交流を持ちたいとのホームの提案に対して会議内で情報提供等の協力があり実現に向けて取り組んでいる。	○	会議内容についての家族への報告は請求書発送時に情報提供しているが、家族会でも報告する機会を検討している。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通して行政との繋がりがあり、市へホームの情報を提供しやすい環境が整っている。ホームは日常的に市との電話連絡を密にするなど、関わりを継続させる努力をしている。市の担当部署はグループホームの空き情報について、地域包括支援センターとの協力で情報提供しており、ホームも適宜情報を収集し活用している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状態については家族面会時や電話等で伝えるとともに、月に1回写真を添えた文書で報告している。金銭管理に関しては少額をホームで預かり、利用に応じて出納帳で報告する以外に月末に請求書で報告している。ホーム便りは行事の開催等に応じて発行している。	○	家族会の開催については家族の時間的な負担も考慮し、行事とあわせて実施をしようかと検討中である。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談等については、家族の面会時に対応する事が多く、職員は共通認識を持つ為に苦情処理記録として残している。研修会で記録を提示・回覧すると共にミーティングで話し合いを持ち対応を統一していく取り組みがある。家族からの要望が出たときは、対応方法も含めて報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職に関しては、入居者の不穏を招かないように対応・報告方法についてその都度配慮・工夫しており、役職者の離職に関しては家族等への報告を確実にしている。ユニット毎の不必要な職員の配置換えは行わず、職員と入居者の馴染みの関係が継続するよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤含めた職員の内部研修を3ヶ月に1回実施し、出席しやすいように2回に分けて行うこともある。外部研修に関しては、年間計画をもとに受講している。開催1ヶ月前には、内容を提示し参加を促す取り組みがある。研修受講後、報告会の実施により職員間で情報共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にグループホームがまだ少ないためネットワーク組織が現在できていない。ホームとしては市との関わりを今後も重視し連携を図っていききたいとの意向がある。	○	関連事業所間との交流や連携は、職員のストレスの緩和やサービスの質の向上につながるため、外部研修などを通じて見学や交流を深めるとともに、市との協力にて事業者連絡会の設立等検討を期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人・家族と十分話し合いホームの見学を勧め、馴染んでもらえるよう配慮している。宿泊での体験入居で安心して頂くような取り組みを行っている。今までの習慣や生活歴を把握し居室への持ち込み等は慣れ親しんだ物品になるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者本位のケアを大切に、本人のこれまでの生活歴を把握し、力を発揮できる場面が提供できるよう努めている。日常での家事を職員と共に行い、さりげない支援を行っている。お漬物をつける・梅干を作る等を自然な形で入居者に教えてもらっている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面接や個々の日常の言動・家族からの情報等から本人のバックグラウンドをキャッチし、ホームでの生活の希望や意向を把握するよう努め、その人らしい暮らしが支援できるよう取り組んでいる。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者や計画作成担当者は入居時の本人・家族との面接で本人のニーズを把握し、入居者本位の計画を作成している。入居者のケアにおいて受け持ち制を導入し気付きを出し合い、介護計画作成の参考になっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回の定期的な見直しと、入居者の状態変化があった時や家族の要望に沿って随時の見直しを実施している。複数の疾患の治療中の入居者など状況に応じて、2週に1回の見直しを実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えている。看護師の資格を有する職員も確保しており、24時間体制で相談等の受け入れが可能な取り組みがある。入居者の通院希望に応じて、職員同行で通院支援を行っている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携・協力医である心療内科の医師による2週に1回の往診がある他、近隣には医療機関も充実しており、内科・歯科・整形外科の協力医がある。入居者が今までのかかりつけ医の受診を希望する場合は、職員同行で受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への対応については、方針を整える為に早い時期で家族や医師との話し合いを実施していくよう取り組んでいる。現在までにターミナルまでの受け入れ状況はないが、ホームとしては受け入れ体制を整えていきたいとの意向はある。	○	ターミナルを受け入れる場合は、方針の作成が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重しプライバシーを損ねないような支援を心掛けている。本人の生活リズムに沿った排泄パターンを把握し、さりげない誘導を行っている。秘密保持については契約書等に明示し家族に説明している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体の生活ができるよう、一人ひとりの生活のリズムを尊重し、起床時間・入浴の状況・散歩の時間等本人の望んでいるペースに合わせた支援ができるよう配慮している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は搬入してもらっているが、補足分等は職員とともに買物に行き、準備から片付けまでの一連の流れを職員と一緒にしている。ホーム前の菜園で入居者と収穫した野菜を食材として活用し、誕生日などは本人の好物を取り入れる等配慮している。職員と共に一緒に食事を楽しむ環境を整えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのプライバシーに配慮した個室で、入浴時間は個々の希望にあわせ、夜間入浴希望にも対応できる体制を整えている。入浴拒否の人へは職員間で言葉掛けや対応について工夫した支援が行われている。入居者によっては毎日足浴を実施しており、体調管理に役立てている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の役割やアクティビティは習字・切り絵・体操・編物・菜園の世話・掃除等を、個々の希望や力量に応じて取り入れ支援している。誕生会は入居者個々の誕生日に祝えるよう工夫し、一人ひとりが主役になれるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩は入居者の希望に沿って色々なコースを楽しめるよう配慮し、毎日実施できるよう取り組んでいる。週2回ほどドライブを兼ねた外出の支援が行われ、五感の刺激やストレス発散の機会となっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室が玄関すぐ近くにある為、早朝や食事の準備の時間等は鍵を掛ける時があるが、その他の時間は開放するよう取り組んでいる。各居室は入り口にそれぞれ好みの暖簾等を掛け、ドアを開放している部屋もある。		
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は消防署との連携で定期的に行うと共に、3ヶ月に1回の研修の開催時に毎回実施するよう取り組み、全職員が消火活動がスムーズにできることを目指している。訓練時は周辺地域に事前連絡を行い協力が得られるよう配慮している。	○	消防訓練とともに救急蘇生法も定期的に訓練し、迅速な対応ができることを期待する。



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を有する職員がいて栄養バランスや摂取カロリーに配慮している。食事摂取量は記録し、水分摂取については1日の生活の中で水分補給が確実にできるよう定期的な支援を行っている。入居者の状況によっては水分摂取量の記録を残している。毎食後の口腔ケアを徹底し誤嚥や感染症の予防に努めている。	○	水分チェックの必要性がある人の記録について1日の水分量がトータルでわかるよう、書類の様式の工夫を期待する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にはスロープや手すりを設置し、ホーム内廊下・浴室・トイレ等は要所に手すりを設置する等入居者の現状に応じた環境への配慮がある。居室や共用部分は空気のよどみがないよう、適宜換気を行い空調管理がなされている。ホーム内は、菜園などで育てられた季節の花を適宜飾り、廊下にはボランティアと入居者が共同で作成したちぎり絵の作品や行事の写真等を掲示し、家庭的な親しみを感じさせる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の部屋が多いがベッドの設置も可能で、入居者の慣れ親しんだ家具類や装飾品、入居者の作品等飾り、個々の思いに沿った居室で過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。